

北海道札幌市

支援分野：オープンデータ、医療・
介護・健康

派遣対応年度：令和5年度
地域情報化アドバイザー名：織田 友理子 氏
派遣回数：計1回（実地）
支援形態：講演

基礎情報

- 人口：1,967,822名（令和6年12月1日現在）
- 面積：1,121.26平方キロメートル
- 主な産業：観光業
卸売・小売業
医療・福祉
宿泊業・飲食サービス業



優良事業概要

- 事業名「Universal MaaS」プロジェクト
- 事業の概要

本事業は、障がいや高齢など、何らかの理由により移動にためらいのある方々（移動躊躇層）が快適にストレスなく移動を楽しめるサービスの実装を目指し、札幌市とANAグループが共同で進めているものである。令和5年9月8日（金）には、本事業の一環として、アドバイザーのご協力を得ながら、札幌圏における移動躊躇層の移動や移動先での活動に係る課題を抽出することを目的に、車いすユーザーなどの市民等を対象とした街歩きイベントを開催。当該イベントでは、アドバイザーによるバリアフリー情報の利活用等に関する講演の後、参加者に街を散策いただき、まちのバリアフリー状況等についてご意見を伺うとともに、「ユニバーサル地図/ナビ」（バリアフリー情報や車いすユーザーの走行経路データを提供するサービス）に掲載するバリアフリー情報等のデータ収集を図った。

- アドバイザーへの依頼内容

地域でのバリアフリー情報の利活用について、当事者視点からのアドバイスや他地域での取組事例の紹介など、バリアフリー化を推進されてきた経験を基にご紹介いただくこと。それによって、イベント参加者が共生社会の意義を深く理解できる機会とすること。

地域情報化アドバイザーから受けた支援内容

イベント前半に行ったアドバイザー、札幌市長等とのトークイベントの中で、まちのバリアフリー化の推進に向けた課題解決に関するアドバイスを、ご自身の体験や他都市事例も踏まえてご発言いただいた。

後半の街歩きイベントでは、車いすでの街歩きを通じて気づいた問題点・課題などの発表についてご講評をいただくとともに、情報のバリアフリー及び心のバリアフリーの重要性等についてご講演いただいた。

これらの支援により、当日の参加者はもとより後日配信となった動画コンテンツの視聴者を含め幅広くバリアフリーの意義等を発信することができた。



▲当日の様子（トークイベント）



▲当日の様子（車いす街歩き）

支援を受けた事業の最新状況

- 令和5年7月に提供開始した「ユニバーサル地図/ナビ」の利用促進のため、令和5年度末にPRチラシを作成したほか、（一社）札幌観光協会の協力を得て、当該団体が管理する札幌市の観光情報サイト「ようこそさっぽろ」や、当該団体が事務局を担う各種イベントのパンフレット、イベントHPにリンク等を掲載。
- 上記のほか、冬期におけるバリアフリーの課題把握のための調査（令和5年1月）や、車イス利用者の外出機会創出等を目的に、冬期に車いすの移動支援ツールを体験する実証実験を実施（令和6年2月）。
- 当該サービスの市民等への認知がまだまだ低いことから、今後も各種イベント等の機会を生かし、露出増、利用促進を図っていく予定。
- また、市内宿泊施設のバリアフリー情報等の掲載情報の拡充のほか、観光施設等へのアクセス向上を目的としたバリアフリーのおすすめルート掲載機能の活用を目指すなど、更なる利便性の向上に取り組んでいく方針。



ようこそ SAPP_RO

バリアフリー情報

車イス・足腰に不安のある方にやさしい旅を訪れるすべての人にやさしい札幌を目指して。車イスや杖をご利用の方、また、サポートを必要とされるご家族や同行者の方が不安なく旅行を楽しむように、役立つ観光スポット情報をまとめました。

札幌市内のバリアフリー対応・ユニバーサル対応は日々変化しています。お出かけの際は、事前のお問い合わせもおすすめします。

札幌市のバリアフリー情報は「ユニバーサル地図/ナビ」をご覧ください。

「ユニバーサル地図/ナビ」は、利用する方々に合わせた移動の参考情報を提供する新しい地図/ナビです。徒歩区間における最短ルートや、自治体が発信する公共情報と、車いすで走行したルートや利用したスポットなど、車いすユーザーが収集したバリアフリー情報等を掲載しています。

▲R6.2月実施「車いす冬季移動支援ツール体験会」の様子

▲札幌市観光情報サイト「ようこそさっぽろ」掲載ページ

▲ユニバーサル地図/ナビ PRチラシ

地域情報化アドバイザー派遣制度を知るきっかけ

- 本事業を開始した令和4年度のイベント実施に際し、アドバイザーご自身から本制度についてご紹介をいただいた。

支援を受けた事業が成果につながった要因

○本市では、これまで「札幌市バリアフリータウンマップ」という形でバリアフリー情報を提供していたが、公共施設や、施設側から情報提供を受けた一部の民間施設に関する点の情報提供にとどまっていた状況。

○一方で、車いすユーザー等の当事者からは、施設等の利用に当たり、都度、施設側への事前確認を要しており、当事者の利用情報の提供を求められていた。

○本事業のサービスの一つである「ユニバーサル地図/ナビ」は、アドバイザーである織田氏が代表を務める特定非営利活動法人WheeLog提供のアプリと連携されており、バリアフリー経路情報やユーザー情報の追加・更新が随時図られる仕様となっているものの、札幌市内のユーザー情報はまだまだ不足していた。

○アドバイザーからアプリの設計理念や、情報のバリアフリー及び心のバリアフリーの重要性等についてご講演いただいた上で街歩きイベントを実施した結果、イベント参加者が本イベントの目的・意義について理解を深めることができ、単なるバリアフリー情報の収集に留まらず、心のバリアフリーの醸成にもつながる効果を得ることができた。



▲心のバリアフリー
推進マーク

支援をしたアドバイザーが考える成果の要因

市街地のバリアフリー化を推進するにあたり、物理的な整備はもちろん重要だが、ソフト面での対策が全国的に遅れているのが現状である。

今回の取り組みでは、講演や街歩き体験を通じて、参加者に「バリアフリー情報」や合理的配慮といった「心のバリアフリー」の重要性を体感してもらった。この取り組みにより、バリアフリーを他人事とせず、自分ごととして捉える「当事者意識」を醸成できたことが、大きな成果の要因の一つであると考えている。

さらに、車椅子利用者を中心とした市民や行政職員などの参加者が同じ目線でバリアフリーの課題について話し合い、解決方法を議論する機会を持てたことも、当事者意識の定着に寄与した。この結果、共生社会の意義をより深く理解するきっかけとなったと考えている。

地域情報化アドバイザー派遣制度に関する評価・感想

専門家の招聘ハードルが大きく下がるため新規取組に着手しやすくなるほか、制度の活用によりアドバイザーの派遣等に要する費用を負担いただけることで、事業予算も有効活用できるのが大きな利点。要望として、アドバイザーの分野が多岐にわたり、幅広い事業での活用が可能と考えられることから、より広いチャネルを使って制度を周知いただきたい。



▲当日の様子（意見交換・発表）